

新たなまちづくりは「創意工夫・低コスト」で利便性を

土田百合子

問 現在の住宅改修費及び福祉用具の支給は、利用者がいったん費用の全額を払い、その後、市に費用の9割分を請求する仕組みの償還払いとなっている。これを「受領委任払い制度」にすると、当初から1割負担分の2万円に軽減されると思うがどうか。

答 利用者の利便性の向上に結びつくことから支払い方法の検討や事業者との協議、調整などを進め、早期に採用したいと考えている。

問 赤ちゃんの駅とは、おむつ交換や授乳のスペースが確保されている公共施設のことである。

答 乳幼児を連れた保護者が外出時に感じる不便さを解消するため、設置による新時代の子育て支援のバリアフリー事業を提案したい。

答 現在、横手地域局などにおむつ換えや授乳の場所を設置し、ご利用をいただいております。駅前に建設予定の公共施設にも設置する。今後増やし、分かりやすい表示などを検討していく。

問 国民健康保険の医療費は



制度を利用して改修したトイレ

年々増加し深刻な問題となっている。

割安なジェネリック医薬品の利用が増えれば患者負担の軽減と共に医療費抑制につながると思う。積極的な取り組みについて問う。

答 医療費の軽減のため、使用促進に向けて希望カードの配布を検討している。医師会や薬剤師会との連携を調整している所である。

その他の質問

- 地域づくり協議会について
- 認知症対策について
- 高齢者虐待について
- 雪よせ雪おろし支援について
- 子ども手当の支給について
- ヒブワクチン等予防接種の公費負担について

コメの危機突破大会を

齊藤勇

問 今、「水より安いコメ」の実態は、販売額が68億円で、80年代ピーク時の半分であることから明らかか。民主党政権のFTA（自由貿易協定）は限りなく関税ゼロになる完全自由化で致命的であり、9割の農家が影響を受け自給率も12%に下がると農水省も公表している。

答 当市は質量とも日本一の米どころ。正念場にある基幹産業の農業再生のために、コメの危機突破大会の行動こそ横手市からも必要ではないか。

答 WTOの影響やFTAの心配は否定できない。しかし、この運動が非農家も含めて生活の行方にも影響があるのか考えなければならぬ。か



食品加工場（十文字道の駅）

えってマイナスではないかという恐れもある。その辺を検証しながら、産地としての意思を発信していく必要がある。

問 農家がよくなるならば、商店主や町の人達も等しく景気はよくなる。すでに湯沢市と旧十文字町でも「農業者大会」が行われている。

答 産地として農業者のためには何ができるかという視点で応援していく。米に特化した大会が、効果的にできる可能性は探らなければならないが、現時点では研究不足であるので、これから部内を含めた関係者と検討していきたい。

問 当市は、「食と農からのまちづくり」を宣言している。やはり気候変動に強く消費者ニーズに答えられ、また、食育の観点から付加価値ある農産加工場を建設してはどうか。

答 加工販売は重視してきた。産地収益力向上支援事業に位置づけ、生産・販売の二機能の確保に不転の決意で取り組んでいく。

その他の質問

- 国保税の引き下げについて